

科目名 Subject	立体造形演習Ⅰ Three Dimensional Art WorkⅠ		教員名	大須賀万里子	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
実践的教育	○				
主な学習効果	１）美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力		２）表現力、すなわち芸術における実践力		
	—		◎		
科目の概要	立体造形作品の構想や制作を行なう時に必要不可欠な基礎知識や、基礎技術を学び工夫しながら課題を完成できるようにする。多くの素材や教材を用い、それらの特徴と加工方法の関連性を知り楽しみながら習得できる。又、複数の課題を制作しながら、関係のある作品の鑑賞や批評会を行い、修了研究へつなげていく事ができる。さらに立体造形では、他の美術関連科目の技法や知識を用いる必要もあり、美術全体の関連性を広い視野で体験することができる。				
授業の目標	平面と立体の造形上の仕組みや素材の知識、技法、形体、質感、色彩、発想、工程の基本を知り、工夫や応用する事で美術的表現を広めることが出来るようになる。また、異なる素材を扱いながら課題作品制作の面白さ、新鮮さ、ユニークさ、難しさを知り工程に沿って作品を作ることが出来る。学んだ立体造形の美的知識や自由な発想で、作りたいテーマを決定出来るようになり、これらを修了研究や美容作品に応用し、自分や他の人を美しく豊かにできる工夫や準備ができるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	予習・復習を行なうことで、課題制作がより理解できる。授業毎に行なうこと。その他美術関連の展覧会、映像、書籍、美術大学の卒業制作展を見ること。内容等はその都度指示する。				
教科書・教材	教科書	課題の説明、資料、作品鑑賞の手引きは、担当教員作成のものを配布。			
	教材	なし			
	使用設備・備品	木工室の設備備品を使用。			
	参考文献	美術関連の文献を必要に応じて指示。			
評価方法	説明や資料乃理解度３０％ 課題の制作熱意、工夫１０％ 創造力・表現力・応用力６０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。				
	完成された作品について、個別に指導を行います。				
履修上の注意	授業の最初に内容の要点や説明等を行なうので、遅刻をしないこと。完成の課題作品ごとに写真撮影をすること。（修了研究ポートフォリオ用）授業内容の順序、回数は進行状況により変更になる場合もある。				
本科目履修と関連する資格	資格名	芸術学士			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	前期全般の授業内容説明。次回課題について説明。作品鑑賞。	立体作品を制作するための構想、工程等の心構えや準備の大切さを知り、鑑賞により立体の見方を深める事ができる。	予習・自分の知る範囲の立体彫刻を考えしらべる。(30分) 復習・鑑賞で見た作品の感想等を書く。(30分)
第 2 回	「平面から立体へ」一紙の造形一紙の基礎造形(1)	造形素材としての紙の特徴や簡単な加工方法を体験し、紙の可能性の広さを知ることができる。	予習・身の回りの紙製品を調べる。(30分) 復習・紙の作品の見直しと学んだ技法を確認する。(30分)
第 3 回	「平面から立体へ」一紙の造形一形の発見(2)	平面デザインの作成法を知り、変化のある形を多く制作できるようになる。	予習・デザインの意味や内容を出来る範囲で調べる。(30分) 復習・学んだ制作法を確認し覚える。(30分)
第 4 回	「平面から立体へ」一紙の造形一色を創る(3)	アクリル絵の具の使い方を体験し、混色技法で多くの色を作りだす楽しさを知れる事ができる。	予習・身の回りや自然の中に好きな色彩をさがす。(30分) 復習・混色の技法を確認、方法を覚える。(30分)
第 5 回	「平面から立体へ」一紙の造形一抽象の形と台座(4)	抽象の意味と制作法を知り、その本体部分を支える台座の重要性を造形に生かすことができる。	予習・身の周りや自然の中で抽象の形態を調べる。(30分) 復習・制作した台座や抽象の形を確認、工程を覚える。(30分)
第 6 回	「平面から立体へ」一紙の立体彫刻一(5)	課題作品のバランス、強度を考え平面から立体へ変化する過程を楽しみ、完成の達成感を知ることができる。	予習・作品完成の為いろいろな形の組み合わせを試す。(30分) 復習・完成課題作品の写真撮影と見直し(30分)
第 7 回	「イメージと形」一発泡剤と粘土造形一試作品制作(1)	粘土の素材でミニ作品を作り、感覚的なイメージを現実形にする方法を知り制作に生かすことができる。	予習・制作したいミニ造形の形を考える。(30分) 復習・ミニ造形を拡大する構想を考える。(30分)
第 8 回	「イメージと造形」一発泡剤と粘土造形一心材のデザイン(2)	発泡スチロールの加工法と応用を体験し素材の多様性を認識することができる。	予習・ミニ造形を拡大する方法や、他の形も考える。(30分) 復習・心材の大切さを確認方法を覚える。(30分)
第 9 回	「イメージと造形」一発泡剤と粘土の造形一粘土制作(3)	粘土付けを通して、粘土素材の特徴・質感・加工のしやすさを知り、造形制作の意欲を深めることができる。	予習・粘土付けを効果的に行なう為形体の構想を再確認する。(30分) 復習・より良い形体を考える。(30分)
第 10 回	「イメージと形」一発泡剤と粘土造形一彩色と仕上げ(4)	粘土完成作品に彩色を行なう事で表現力や存在感がより強くなる事を体得することができる。	予習・作品の彩色に向けて、効果のある配色を調べる。(30分) 完成課題作品の写真撮影と見直し(30分)
第 11 回	「空間と造形」一石膏の基礎造形一型と流し込み(1)	石膏の特徴と技法を知り、さまざまなデザインの型に流し込む方法で、素材の変化と多様性に興味を持つ事ができる。	予習・身の周りに石膏製のものがあるか調べてみる。(30分) 復習・石膏の特質と技法を再確認する。(30分)
第 12 回	「空間と造形」一石膏の基礎造形一型抜きと成形(2)	型抜きをした石膏形の不都合部分を修正する技法を知り、造形の面白さを深めることができる。	予習・石膏でかたどりする、さまざまな手のデザインを考える(30分) 復習・石膏の修正方法を覚える。(30分)
第 13 回	「空間と造形」一石膏の基礎造形一立体制作(3)	石膏の素材と技法をさらに幅広く習得する為、彫刻刀矢加工工具の使用方法を体得することができる。	予習・立体のデザインを数種類考える。(30分) 復習・彫刻刀矢工具の使用法を確認、覚える。(30分)
第 14 回	「空間と造形」一石膏の基礎造形一立体制作(4)	自分のイメージに沿った形体をほぼ作成することが出来るようになる。	予習・課題作品の完成Ⅱ当たり形、色、表面処理等計画する。(30分) 復習・彫刻刀の高度な使い方を覚える。(30分)
第 15 回	「空間と造形」一石膏の基礎造形一立体制作(5)	今までに習得できた技法や知識を応用し、課題作品を完成できた満足感や達成感を知ることができる。	予習・課題作品の反省、写真撮影、批評会の再確認(60分)